

「一個の虫歯」から始まる  
[負の連鎖]による  
「咬合崩壊」について

## もくじ

- 1本の歯の虫歯の予防から始まる、予防歯科の重要性について ……P 3
- 1回目の虫歯治療 ……P 3
- 2回目の虫歯治療 ……P 4
- 3回目の治療 ……P 4
- 4回目の治療 ……P 5
- 5回目の治療 ……P 5
- 安易に作成した入れ歯を使用すると、起こる現象 ……P 6
- 奥歯を失ったら起こる現象 ……P 6
- 患者様が感じている「口腔内の環境の推移」と、  
実際に起きている「口腔内の環境の推移」の差 ……P 7
- 「予防歯科」の重要性!! ……P 7
- すでにこのような連鎖に陥っている人は  
どうすればよいのか? ……P 7

● **1本の歯の虫歯の予防から始まる、予防歯科の重要性について**

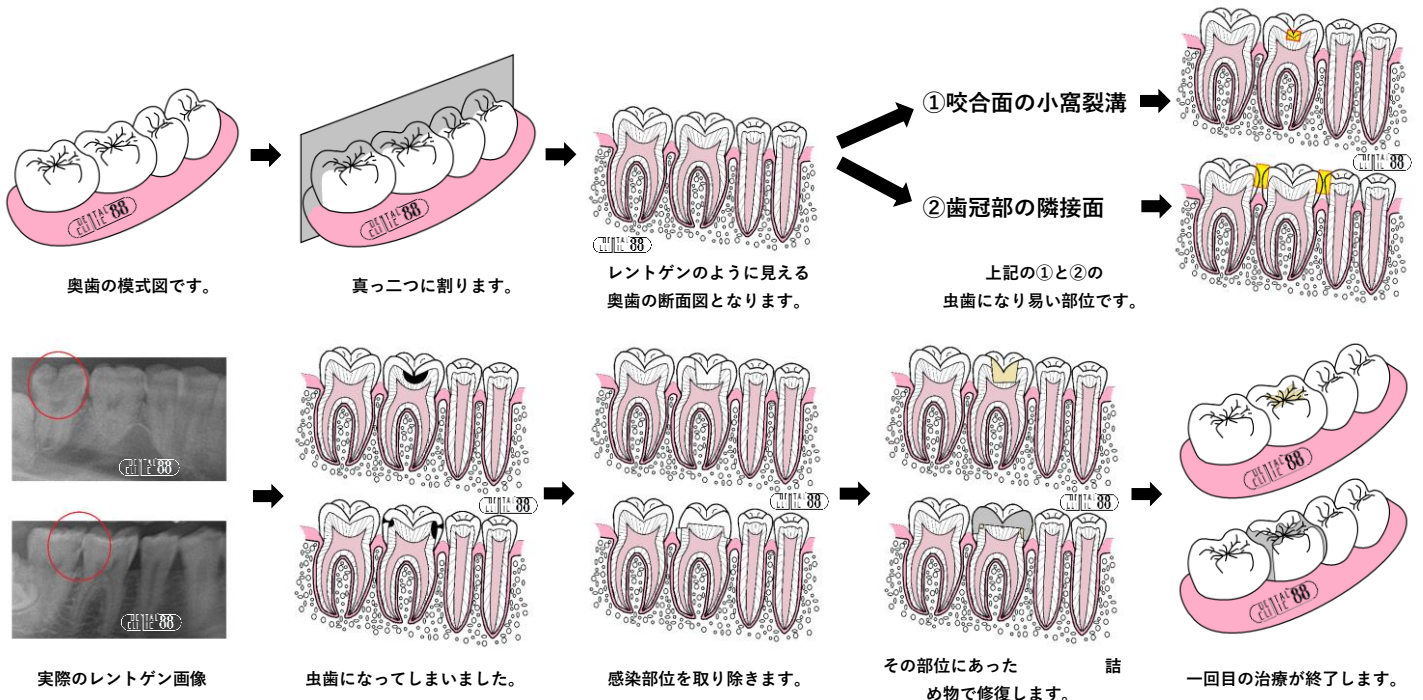
予防歯科とは、将来のトラブルを避けるために、その人が必要とする予防処置を事前に行うことを意味します。これが今日の歯科治療において最も大切な概念です。現在、身の回りの人（親戚・親・兄弟姉妹）に『入れ歯』を使っている方はいませんか？その方が『なぜ入れ歯になったのだろうか？』と疑問に思ったことはありませんか？

もし、「1本の虫歯が全ての原因だった。」と話したら、信じて頂けるでしょうか？

『また～大げさな話をしている』と思われる方もいらっしゃるでしょうが、これからお話するように、『1本の虫歯』がすべてのことの引き金であることは間違いありません。決して大げさに話を盛っているわけではありません。きちんとした予防の概念に基づいて管理する『かかりつけの歯医者』がなく、困ったときだけ歯医者に行くということを繰り返している人には、誰にでも共通して起こっている現実です。

● **1回目の虫歯治療**

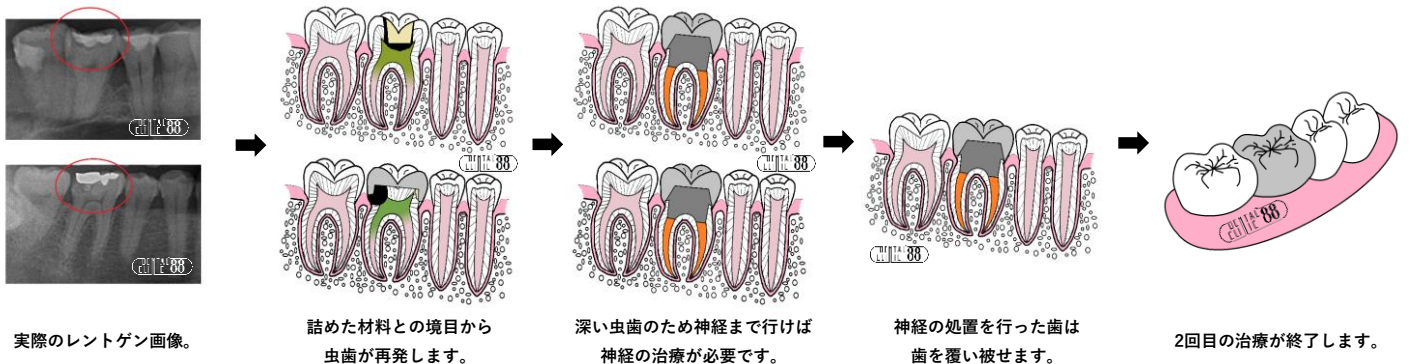
虫歯ができやすい場所については、以前にもお話したかもしれませんが、①奥歯の噛む面にある細かい溝（咬合面の小窩裂溝）、②歯と歯の間隙（歯冠部の隣接面）、③歯と歯茎の間隙（歯頸部）の3つです。特に③は、歯ブラシの正しい当て方を習得するだけで防げます。したがって、仮に①と②の部位が予防されず、そこが虫歯になったとしましょう。



以上のように、虫歯（感染が始まった部位）を取り除き、保険診療では削った部分を樹脂で修復します。これで処置は終了です。多くの方はこれで問題が治癒し、『治った!!』と思うでしょう。しかし、それが最初の誤解です。決して問題が解決したわけではありません。病気の進行を止めるために感染部位を取り除き、そこに異物を詰めて補っているにすぎません。そもそもその部位が虫歯になった原因は、その部位の清掃不良です。今回の処置で、歯と削った部分、そして埋めた材料のつなぎ目には、人の目には見えませんが、細菌からすれば『大きな段差』のようなものが存在します。その部位の清掃状態が改善されていなければ、そこから再度、必ず虫歯が発生します。

## ● 2回目の虫歯治療

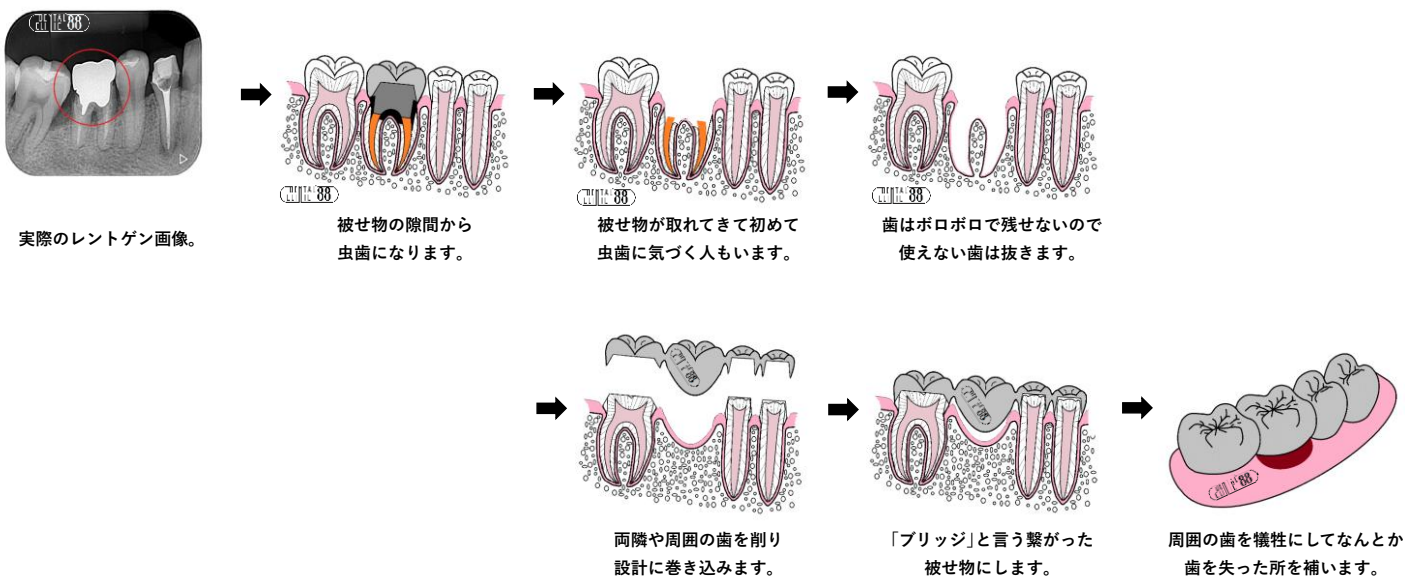
1回目の治療が終わり、そのまま清掃性の改善や予防の必要性を認識しないままで過ごしたとしましょう。健全な歯は、成長とともに丈夫になり、次第に虫歯になりにくくなっていきます。そのため、トラブルなく健全に経過してきた歯よりも、一度治療された歯のほうが、清掃の必要性が高まっている状態です。もし、適切な清掃や予防処置が行われていなければ、そのような歯には必ず虫歯が再発します。



また同様に、処置が終了したことで『治った!!』と思うのであれば、何度でも虫歯は再発します。2度も繰り返しているのです、このように強く言わずとも明らかだとは思いますが、原因は自己管理の不足、予防の概念の欠如、自己管理の限界を認識していないこと、そしてプロによる定期的な管理の不足です。

## ● 3回目の治療

同じ歯に3度目の虫歯治療を行うことはほとんどありません。なぜなら、その時点で歯の神経はすでに取りられていることが多く、たとえ虫歯があっても痛みなどの症状がなく、気づいた時には歯がボロボロになっており、残せないことが多いためです。また、神経とともに歯を栄養している血流も失われているため、他の健全な歯のように栄養が供給されず、どうしても枯れ木のように脆くなり、割れたりすることも多いのです。



歯を抜いた後、その部分を補うために、周囲の歯を利用して歯を連続して繋げた構造の『ブリッジ』という被せ物で補います。しかし、この『ブリッジ』は繋がっているため、非常に清掃が難しいです。清掃方法の改善と、プロによる定期的な管理がなければ維持できません。

### ● 4回目の治療

「ブリッジ」は周囲の歯を巻き込んでいるため、トラブルが飛び火のように周囲の歯に広がり始めます。「ブリッジ」は構造上、歯が繋がっているため、清掃が非常に難しいです。最も困難なのは、抜いた歯の部分にあるダミーの歯の周りです。抜歯した部分は時間の経過とともに骨が痩せ**ダミーの歯の周囲に隙間が生じ、汚れがどんどん溜まりやすくなります**。汚れとともに、口内の細菌が増殖し、被せ物の隙間から虫歯が進行していきます。



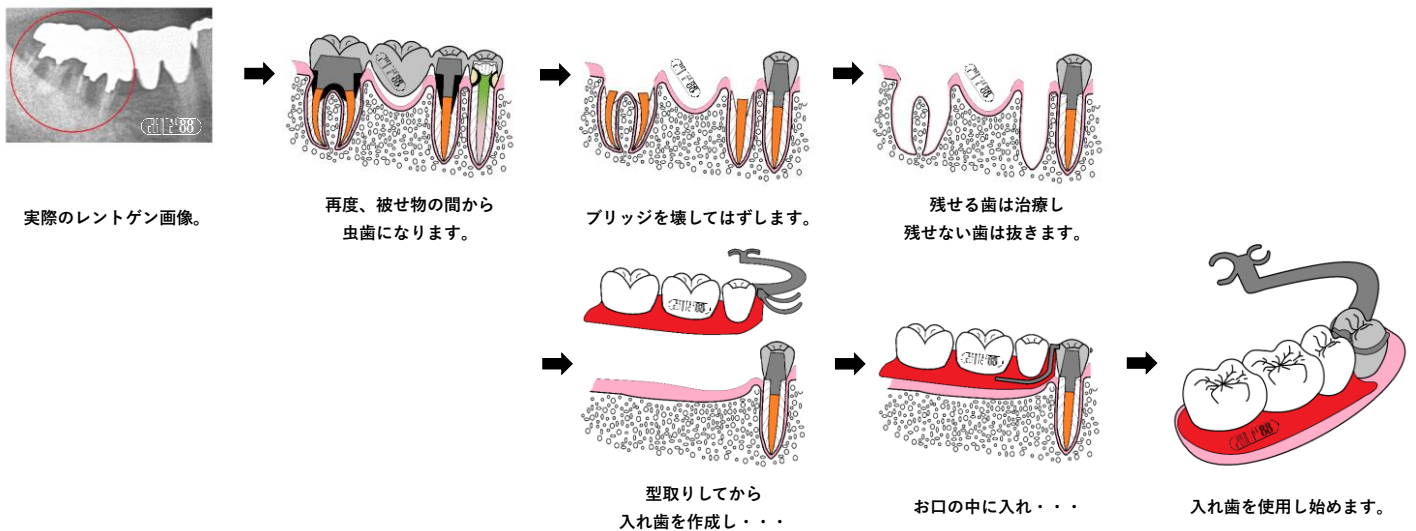
処置は終了しますが、この処置が、ご自身の歯で噛める最後のチャンスとなるかもしれません。

これ以降、その方の状況や口腔内に対する自己認識に改善が見られない場合には・・・。

### ● 5回目の治療

同様に、深い虫歯のため神経を取り去った歯は、たとえ虫歯になっても痛みがなく、また歯自体も非常に弱くなります。その歯に再治療が必要になる時には、もう保存が難しいことが多いです。しかも、今回は周囲に頼る歯もありません。

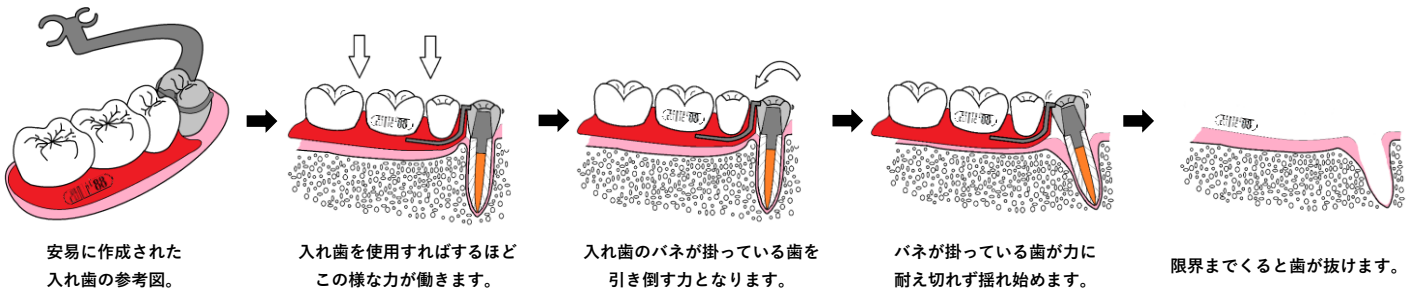
保険診療でできる唯一の治療は、最初にお話ししたような『**入れ歯**』となります。



このように、トラブルが起きた時だけ歯医者に行くような人は、最終的に『**入れ歯**』になる傾向があります。これを防ぐためには、きちんと自己管理能力を必要に応じて高め、トラブルを事前に予防することの大切さを早期に理解し、また自己管理の限界を理解した上で、プロによる定期的な管理を受けることが非常に重要です。そうしなければ、必ず上記のような流れに進み、『**入れ歯**』になることは避けられません。しかし、これで終わりではありません。ここから本格的な『**咬合崩壊**』が始まるのです。よく設計されていない、歯が抜けたからとりあえず作成されたような『**入れ歯**』を使用すると、ただでさえ失われつつある歯と歯の噛み合わせ（咬合）を、ますます失っていく原因になります。下手に**入れ歯を使用すると、自分の噛む力で自分の咬合を崩壊させていきます！**

● **安易に作成した入れ歯を使用すると、起こる現象**

「『入れ歯』の問題点としてよく患者様からいただく意見に、失った体の機能を補う装置であるため、自分の歯で噛むのとは全く違うというのがありますが、その通りです。あくまでも機能を補うための装置であり、義足が足を失った方にとっての補助具であるのと同じです。練習して慣れないと、きちんと使用するのは難しいものです。また、どんなに熟練して使いこなしても、自分の歯のように噛めるようには、残念ながらなりません。患者様目線で考えると、このようなトラブルを想定するのが一般的ですが、『入れ歯』の本当の問題点はそこではありません。一番の『入れ歯』の問題点は、『入れ歯』自体が残っているご自身の歯に多大な負担を強いているということです。

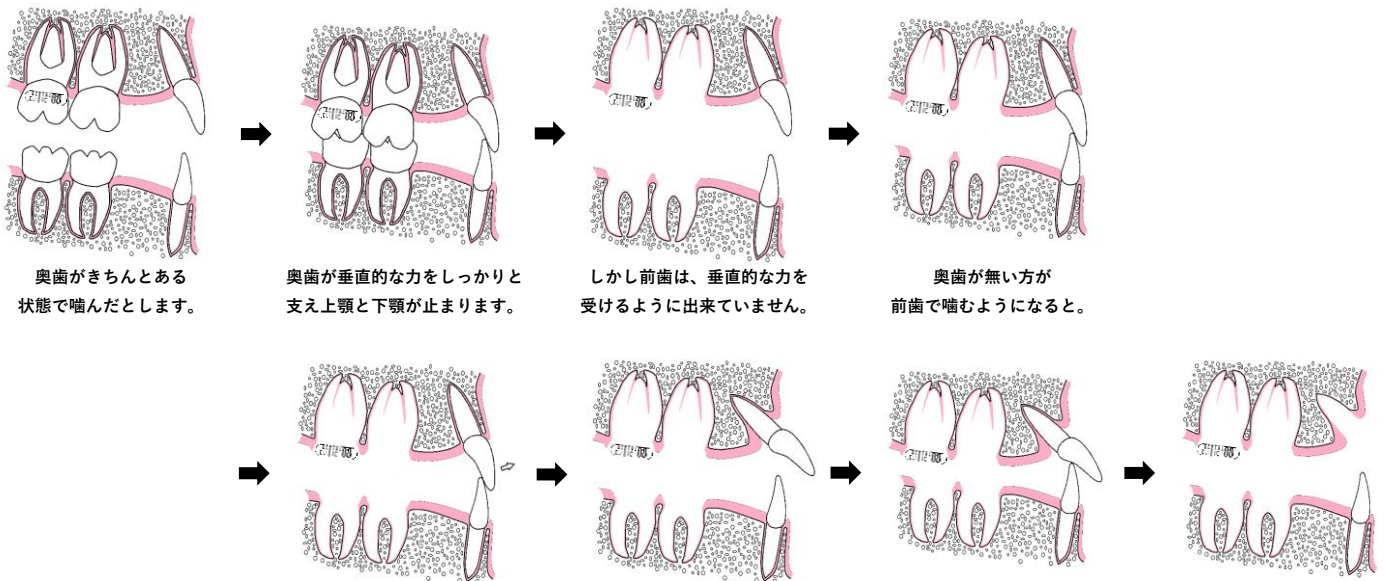


このような『**栓抜き**』のような作用を及ぼす『入れ歯』を使用すれば、まるで『**歯抜き装置**』をわざわざ使用しているようなものです。

一つの歯が耐え切れずダメになれば、今度はその隣の歯にバネをかけ、その歯も抜くこととなります。これでは、もう『**総入れ歯**』への一直線の道を進んでいる状態です。

● **奥歯を失ったら起こる現象**

このようにして、皆さんなし崩しに奥歯を失っていきませんが、奥歯の噛み合わせを失うと、この『**咬合崩壊**』は加速して進行し始めます。

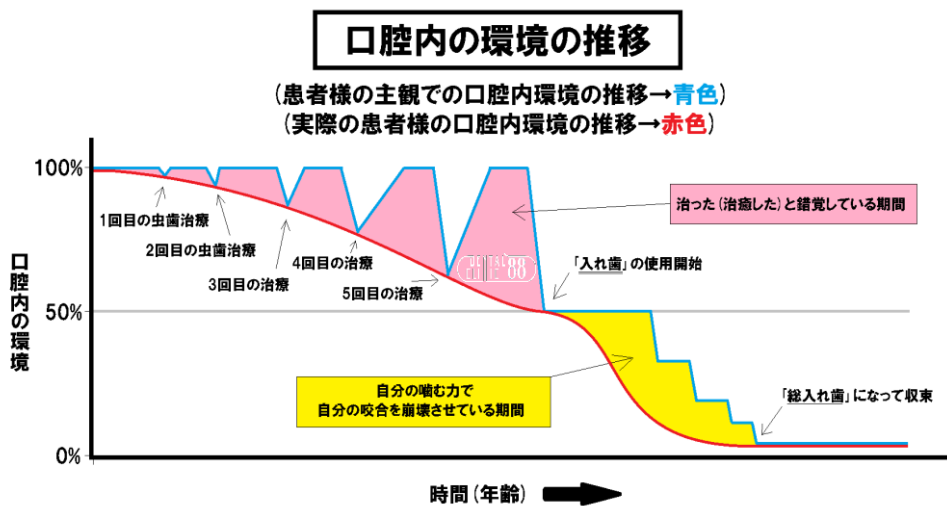


このように奥歯がないと、皆さんは前歯を使ってなんとかか過ごそうとしますが、前歯はそもそもそのような力に耐えられるようにはできていません。人は奥歯の支えがあって初めて、上顎と下顎がきちんと噛み合い、一定の位置で咬合を保てるのです。それが失われると、自覚症状がないまま『**咬合崩壊**』が加速し、『**総入れ歯**』になるのは時間の問題です。

● **患者様が感じている「口腔内の環境の推移」と、実際に起きている「口腔内の環境の推移」の差**

以上のように、ご自身の口腔内の状態をしっかりと理解せず、自己管理が疎かで、予防の重要性も知らず、定期検診によるフォローもないまま、困ったときだけ歯医者に行くことを繰り返していると、『一個の虫歯』から連鎖的にトラブルが起こり、やがて『咬合崩壊』を引き起こします。ここまで読んで、理解し納得される方が多いことを祈っていますが、実際に歯医者に来られた方も、一時的には説明を受けて『なるほどね!』と言って納得されます。そして、とても感心して『説明してくれてありがとう!』と言われます。しかし、話を聞いて納得しただけで、その後来院しなくなる方が多くいらっしゃいます。それはなぜでしょうか？

あくまで当医院の見解ですが、実際には何か事情がある場合もあるかもしれません。しかし、おそらく自分の話だと認識せず、他人事だと思っているのではないのでしょうか？ご自身が考えている口腔内の状態と、実際に起きていることが結びつきにくいのだと思います。そこで、『時間』と『口腔内環境の推移』をグラフにして見てみましょう。



毎回、単発の治療で治ったと思うことが一番の原因だと思います。歯科治療で、完全に元の状態に治癒させることは非常に難しいです。何かを取り去り、それを補うように何かを当てはめているだけの状態です。その管理方法を学ばなければ、必ず悪化します。治療だけで終わらせるということは、原因の解消はできておらず、その場しのぎの対応をしているにすぎません。

● **予防歯科の重要性!!**

**最初から、虫歯を一つも作らないよう予防することの重要性をご理解いただけたら幸いです。**

(※実際には、他の虫歯や歯周病、噛み合わせによるトラブルなど、他の要因が関与し、より複雑に進行していきます。これはあくまでも「1つの虫歯」とその「清掃性」の問題に関する例です。)

● **すでにこのような連鎖に陥っている人はどうすればよいのか？**

予防が重要だと認識することが大切です。『今まで知らなかった!』という人もいるでしょうが、それは問題ありません。まずは予防の概念を持ち、全体をしっかりと見てくれる、そしてご自身が納得できる『かかりつけ歯医者』を見つけることです。そのうえで、ご自身の口腔内の現状を理解し、現状を維持するために必要な処置をきちんと行うことが重要です。

それが終わったら、その時の現状に合わせた自己管理の方法を習得し、ご自身の管理で追いつかない部分を定期検診でフォローアップできるようにすれば、悪循環から抜け出せます。長い道のりかもしれませんが、**問題を隠すのはもうやめましょう。**